

東富士軍用道路建設を許すな

2.20 北富士闘争

日刊 勤労千葉

83, 2, 23
No. 1273

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）五三五（六）公衆〇四七二（二二）七二〇七

二月八日、日本道路公団は、農民の入会権・耕作権を踏みにじり、山梨県警機動隊百名に守られて、東富士軍用道路の立入測量・中心杭打ちを抜きうち的に行うという暴挙を働いた。

忍草母の会は、忍草農民の入会林檎丸尾に管理小屋を建て、24時間の座り込みで突入している。梨ヶ原の大地を覆った雪の上にも温い日さしが降り注ぎぬけるような青空のもとで開催された、2・20北富士闘争は、緊迫した情勢を反映している。つになく固い決意にあふれた熱気が満ちていた。

多くの連帯の挨拶の後、基調報告にたった渡辺入会組合長代行は、「敵が戦いをいどんできた以上、うけてたつことを天下に宣言する。この一帯は人民が勝つか、権力が勝つかの戦場だ。北富士闘争の新段階の幕明けである。山を人民より略奪する者を許すな！北富士農民軍万才！」と烈々たる提起を行いさらに、忍草母の会を代表して決意にたつた大森さんは、「永年育ててきた木がガッパリと根をはつた母なる大地……この檜丸尾……命をかけて守りぬいた檜丸尾・村人よ忘れるな・村人よまなじりを決せよ・村人よ、カービン銃にたち向つたあの勇気を想いおこせ・雄々しい誇りを想いおこせ」と訴えかけた。

また、特別報告として、壇上にたつた三里塚反対同盟婦人行動隊長長谷川タケさんは、「一坪再共有化」運動にふれ、「一部の先ばしつた者が勝手にピラをまいたり、おかしなことを始めているが、そのような運動を反対同盟が決定したことはない。83年は、三里塚も二期決戦の正念場を迎えています。北原選挙勝利、3・27には全力で三里塚へ結集されるよう訴えます」と力強く訴え、会場から大きな拍手がおくられた。

日米共同演習粉碎！軍用道路建設阻止！三里塚―北富士闘争の勝利かちとろう

われわれは、忍草母の会との連帯を一層固め、三里塚二期決戦と結合して北富士闘争の勝利をきり開かなければならない。

集会後、デモに移るや、演習場内の自衛隊への入りは認めない！と、ロボットのように繰り返し、弾圧のスキを狙う。デモ隊はさらにバスで山中湖村の方まで遠征し、村一帯を「軍用道路建設阻止！入会地奪還！」のシュプレヒコールとデモで席卷し、機動隊で固められた道路公団に対し怒りを叩きつけた。

日本共同軍事演習粉碎！東富士軍用道路建設を許すな！反動中曾根内閣の軍事大国化！戦争政策を、北富士―三里塚の勝利でうちくたこう！

クッキリと浮び上った富士を真正面にすえ、決起集会は寒風をふきとばす熱気のうちにかちとられた。



「東富士軍用道路」とは

一九七三年、北富士演習場が米軍から自衛隊へと使用転換された。その際、演習場反対・入会地奪還を要求する農民の闘いをおさえるために、防衛庁は「一般道路」の建設を約束していた。その道路を、今日、軍事大国化・日米軍事演習強化に直結させた巨大な軍用道路として建設しようという構想が急速に浮上してきたものである。

しかも、その内実は、①山梨県側ルート用地部分のうち65%に相当する部分が忍草農民と新屋農民が生命をかけて米軍・自衛隊から奪いかえし守り育ててきた入会地であり、耕作地である。②また、防衛庁・道路公団のいう「地元民のためのバイパス有料道路」とは真赤なウソであり、河口湖インターを起点とする道路の終点は自衛隊富士学校なのである。これによつて東富士演習場と北富士演習場が、わずか10分で直結され基地機能が一挙に十倍化する。富士のすそ野の北―東―南面一帯が世界にもまれにみる巨大な一つの演習場・軍事基地へと変ぼうすることを意味するのである。③しかも、この道路建設によつて政府・防衛庁は、富士のすそ野に点在していた無数の戦闘部隊・駐屯地や基地群（富士学校、北富士、富士、滝ヶ原、板妻、駒門等）を東名・中央高速道路に接続させ、短時間に関首を軍事制圧できるように直結するといふ、極めて露骨な軍用道路そのものなのである。